

幽門側胃切除既往症例に対する尾側膵切除術の検討（術中血流評価と残胃温存の可能性）

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡ください。

研究の目的と方法

近年、胃がんなどで胃の一部を切除した後も長く生活される方が増えています。一方で、その後に膵臓（すいぞう）の病気が見つかり、膵臓の左側を切除する手術が必要になる場合があります。しかし、胃の手術を受けたことがある患者さんでは、胃へ流れる血液の経路が変化しているため、膵臓の手術によって胃の血流が不足し、胃の組織が傷んでしまう危険性があります。そのため、胃を残せるのか、それとも追加で切除した方が安全なのかを慎重に判断する必要があります。

この研究では、過去に胃の一部を切除した患者さんが膵臓の手術を受けた際に、手術中に専用の薬剤（ICG）を用いて胃の血流を確認し、安全に胃を残せるかどうかを調べました。

診療を通じて記録された情報のみを使用します。この研究のために新たな検査や調査をお願いすることはありません。

研究の対象となる方

2012年3月から2026年6月までに当院で尾側膵切除術を受けられた幽門側胃切除術の既往をもった方

使用する試料・情報

年齢、性別、手術日、以前の手術の内容、周術期情報、術後合併症の有無、術後在院期間など。

使用開始予定日：2026年9月25日

研究予定期間

2026年9月25日～2027年4月10日

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。氏名や患者IDなどの個人を特定できる情報を削除し、研究用IDを付して管理します。患者IDと研究用IDの対応表は適切に管理し、外部に漏れないよう取り扱います。研究成果を学会等で発表する予定ですが、個人が特定されることはありません。

〔研究情報管理責任者〕 外科 甲斐田剛圭

〔個人情報管理責任者〕 院長 中尾浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停止するとともに、収集した情報等も可能な限り削除します。既に研究成果の公表後などで削除が困難な場合は、その旨をご説明します。本研究への協力は患者さんの治療とは関係がなく、ご協力いただけない場合も不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を

閲覧することができます。

問い合わせ先	済生会熊本病院 外科 甲斐田 剛圭 住所：熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号 電話：096-351-8000（代表）
--------	--